どうやって脱出する？

① 足の鉄の鎖を壊して闘技場の壁を登る。

② すぐには逃げずにより良い好機を待つ。

野外

くたくたではあったが、力を振り絞って何とか鎖を破壊し、鉄の拘束からその身の自由を取り戻した。闘技場の壁をよじ登ると、見物客のオーキッドはみな悲鳴を上げながら逃げていく。衛兵の一団が白いローブのオーキッドの周りを固め、安全な場所へと誘導していく。

他にいい考えも浮かばなかったので、民衆の逃げる方向へと急いだ。脱出に使える出口があるといいのだが。しかしいきなり行く手を阻まれた。前方の影のなかより、黒いローブの落ち着きはらったオーキッドが現れたのだ。

「君たちは期待通りだった」彼は言った。「自由が欲しいのなら一緒に来なさい」言い終わるや否や、再び影の中へと踵を返した。諸君がついてくることを確信していた。振り向いて、今まで向かっていた出口のほうを確認する。多数の武装した衛兵が、諸君の前進を阻もうと隊列を組んでいる。簡単に突破できそうにはない。

選択 A：黒いローブのオーキッドを追って影の中に入る。

選択 B：出口まで戦って切り抜ける。

m7

博士の研究所

選択肢: 謎めいたオーキッドについて行く
目的: 敵の全滅

序幕:

闇の中、いくつも分岐する曲がりくねった道を縫って、そのオーキッドについていく。道中何度も、みなが通路を通り抜けた後、オーキッドはいつわりの壁で退路を塞ぎ、追跡者を阻んだ。安全だとは思える反面、完全に迷子になり、無防備だった。

ついに大きな石の部屋までたどり着く。そこには３人のオーキッドがおり、青写真が散乱した木製の机を挟んで議論を白熱させていた。そして入ってきた諸君を睨みつける。

「君は正しかったね、アッシュトゥース」ひとりが諸君を先導したオーキッドに向かって言った。「いいことだよ。その者たちを使うのが、一番理想的な計画だからね」

異議を唱えようとすると、アッシュトゥースは手を挙げて静粛を求めた。「しゃべる必要はない。知らなくてはならないことは全て説明する。諸君は計画どおり実行すればいい。それがこの島から脱出する唯一の方法なのだから」

諸君は席に招かれ、説明を受けた。この者たちの物腰は、外のオーキッドとはまるで異なり、とても穏やかで落ち着いていた。

ここはオーキッドたちの故郷からさほど遠くない島だが、ここ数年、住民間のトラブルが加速度的に多発している。故国の共同体からカリスマ性に満ちた女オーキッドが《神託者》としてやってきて「失われし真の道は、知識や瞑想から導き出されることはない」と説き始めた。「真の道とはこの《神託者》に従い、快楽に身を委ねること。さすれば、あらゆる現世利益が満たされであろう」と。

「オーキッド本来の生活様式は容易いものではない」アッシュトゥースは言った。「それでも必要なことだ。『みずからの責務から逃れることができる』と呼びかけるなど、悪の権化としか言いようがない。《神託者》滅ぶべし。倒すことができれば信者も離散し、何の妨害もなく君たちは島から脱出することができる。倒さなければ、君たちを探し回っている手の者から逃げる術はない」

アッシュトゥースは計画を説明し始めた。クワトリル砦の廃墟の、古い地下道の地図を広げる。《神託者》の住居たる城に通じているという。詳しく吟味し、内部の聖域に至るまでの経路を頭に叩きこむ。

オーキッドたちは「その地下道は掃除しておいた」と請け負った。だが天守閣の間際まで来ると、巡回中の不死者の一団に出くわした。さらに先の通路は、対侵入者用の罠で塞がれている。

使用する地形タイル:

C1a
H1b
B2b
B3b
I1b

生ける骸骨　古代の大砲　ウーズ　石のゴーレム　宝箱 (x1)

負傷の罠 (x5)　気絶の罠 (x5)　水路 (x8)　棚 (x2)

特別ルール:

罠 ⓐ のいずれかが起動したら、ⓑ に生ける骸骨を１体発生させます。罠 ⓒ のいずれかが起動したら、ⓓ に古代の大砲を１体が発生させます。２人ゲームなら通常モンスターです。３人なら古代の大砲が、４人なら両方とも上級モンスターです。

扉 ⓛ は施錠されており、いずれかの手番終了時、ⓔ の感圧板の両方にそれぞれキャラクターが乗っていることで解錠されます。それ以後、その扉は開いたままとなります。

1

扉が開くと、老クワトリルがこちらに背を向けていた。研究所の中央の、金属と石でできた巨体に対し、身をかがめて作業していた。闘技場で戦ったゴーレムによく似ていたが、中空であった。

「我が君は、オマエらの到来を予見していたというのに」そこで咳き込んだ。「全ての罠を潜り抜けるのに……もっと時間がかかると踏んでいたのだが」そしてゴーレムによじ登り、中央の開口部から金属の小部屋へと乗りこんだ。ゴーレムは内部のクワトリルの動きを模倣し、操り人形のように動作を始めた。

「ふうむ」クワトリルの声。「廃棄物の封じ込めかたが不完全だが、これはこれでいいだろう」

特別ルール:

石のゴーレムは《博士》です。シナリオ・レベルよりも２レベル高いものとします（上限は７レベル）。毎手番終了時（たとえ《博士》が気絶していても）、ウーズを１体召喚します。このウーズは、２～３人ゲームでは通常、４人では上級モンスターとなります。

終幕:

動かなくなるまで、《博士》の“廃棄物”を生み出す被造物を叩きのめした。駆け寄ると、内部ではまた《博士》が咳き込んでいた。

「期待どおりにはいかなかったか」《博士》は淡々と笑った。「流石は私のロケット・ゴーレムをオシャカにした猛者だ」

「私はまだ少し混乱しているのだ。どうやってここを見つけだせたんだ？　我が君の敵対勢力と手を結んだのか？　もしそうなら、どうしてだ？　私はオマエらの望み通りに、群衆と我が君を動かして進ぜよう。必ずや有益な妥協点を見出すことができよう」

報酬:

各人 15ゴールドずつ

宝箱の中身:

1：□アイテム034番　〈体力増強薬（強）〉